

さっぽろ環境インタープリター養成プログラム

第 8 回「実践研修さっぽろホワイトイルミネーション点灯式」

「ひとが行動に移るきっかけとは？」 報告

事業名	さっぽろ環境インタープリター養成プログラム 第 8 回「実践研修/さっぽろホワイトイルミネーション点灯式」 「ひとが行動に移るきっかけとは？」
講師	1. (株)どりーむ 前田 慎一氏 2. 北海道大学行動システム科学講座准教授 大沼 進氏
実施日時	平成 27 年 11 月 20 日(金) 16:30～20:00
実施場所	1. 札幌大通公園 1 丁目 2. 札幌市市民ホール会議室
参加人員	22 名
実施の様子	<p>【前田 慎一氏 講演】</p> <p>札幌大通公園で開催される「さっぽろホワイトイルミネーション」会場である大通公園 1 丁目で実地研修。</p> <p>本助成金で制作した環境教育教材「スマイルフォトスタンド」の LED イルミネーション（電気）は廃油を活用した BDF を発電機で電気を供給。</p> <p>札幌市内で廃油を回収し、BDF 発電をイルミネーションイベントで実践している株式会社どりーむ社長の前田氏に BDF 発電の仕組みについて現地で講義いただいた。</p> <p>点灯式で明かりが点ったスマイルフォトスタンドを受講者が体験。</p> <p>BDF 発電に関しては知らない受講者も多く、改めて廃油の活用、収集の方法、発電の利用などについて知る機会となった。</p>



【大沼 進氏 講演】

大沼氏が携わった札幌市のごみ有料化（2009年）に向けた取り組みを題材に、有料化が実施されるまでのプロセスについて講義いただいた。

ゴミの問題は日常的で身近に感じることのできる課題。

ごみ有料化に対しては当初反対意見が多数を占めていた。

「有料化」としていた論旨を「どうしたらゴミを減らすことができるか」「環境を保全していくために出来ることは何か」と議論のテーマを設定。

合意形成のため直接市民と対話をする双方コミュニケーションの場を設けた。

同時に、買い物の時に提供されていた「レジ袋」を貰わず、持参した買い物袋で対応する実証実験を研究室で実施。

レジ袋を拒否して買い物袋で対応する市民が多いことに手応えを感じた。

ゴミ等に関する公共的な社会問題には「必要だが自分に関わりたくない」というようなジレンマがある。一方的な押し付けやしほりて人を動かすのではなく、どのように内発的な動機付けができるかを検討していく必要がある。

そのプロセスにおいて合意の形成が進むと市民の理解を得る制度づくりに向かうことができる。

